

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F126310107644	設置等組織名	情報学部(学科名称検討中)、デザイン学部建築学科
大学名	京都精華大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	京都	事業計画名	京都精華大学 情報学部（通信制）設置・建築学科収容定員増加計画

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できている、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	1-① 令和6年8月～教育課程の内容検討（情報学部、建築学科） 1-② 令和6年8月～カリキュラムアドバイザー、本学教員等で編成されるカリキュラム検討会議（以降定期開催、情報学部、建築学科） 1-③ 令和6年8月～施設・設備検討会議（以降定期開催、情報学部、建築学科） 1-④ 令和6年8月～インド工科大学ムンバイ校、シリ・パラジ大学関係者とのカリキュラム検討のための現地会合（情報学部） 1-⑤ 令和8年9月～教材準備（情報学部） 1-⑥ 令和6年10月～受講者層となる人材をターゲットとした企業や関係団体によるワークショップ（情報学部） 1-⑦ 令和6年10月～実務家教員調査スタート（建築学科） 1-⑧ 令和6年10月～自治体・企業への意見聴取スタート（建築学科） 1-⑨ 令和7年4月～ニーズ調査のための通信制高校、地元企業等への調査（情報学部） 1-⑩ 令和7年4月～学部開設に係る広報開始（構想中を付記） 1-⑪ 令和7年4月～広報用パンフレット/ホームページ制作（情報学部） 1-⑫ 令和7年4月～高大連携ワークショップ（建築学科） 1-⑬ 令和7年4月～日本語学校への訪問活動（建築学科） 1-⑭ 令和7年6月～プレスリリース、入試情報の公表（情報学部、建築学科） 1-⑮ 令和8年4月～ニーズ調査（建築学科） 1-⑯ 令和8年9月～特設サイト/パンフレット制作（建築学科） 1-⑰ 令和8年9月～動画制作（建築学科） 1-⑱ 令和8年9月～動画広告作成、配信（情報学部、建築学科）	1-① 令和6年10月～教育課程の内容検討（情報学部、建築学科） 1-② 令和6年10月～カリキュラムアドバイザー、本学教員等で編成されるカリキュラム検討会議（以降定期開催、情報学部、建築学科） 1-③ 令和6年8月～施設・設備検討会議（以降定期開催、情報学部、建築学科） 1-④ 令和7年8月～インド工科大学ムンバイ校、シリ・パラジ大学関係者とのカリキュラム検討のための現地会合（情報学部） 1-⑤ 令和8年9月～教材準備（情報学部） 1-⑥ 令和7年10月～受講者層となる人材をターゲットとした企業や関係団体によるワークショップ（情報学部） 1-⑦ 令和6年10月～実務家教員調査スタート（建築学科） 1-⑧ 令和7年10月～自治体・企業への意見聴取スタート（建築学科） 1-⑨ 令和7年4月～ニーズ調査のための通信制高校、地元企業等への調査（情報学部） 1-⑩ 令和7年4月～学部開設に係る広報開始（構想中を付記） 1-⑪ 令和7年4月～広報用パンフレット/ホームページ制作（情報学部） 1-⑫ 令和7年4月～高大連携ワークショップ（建築学科） 1-⑬ 令和7年4月～日本語学校への訪問活動（建築学科） 1-⑭ 令和7年6月～プレスリリース、入試情報の公表（情報学部、建築学科） 1-⑮ 令和7年4月～ニーズ調査（建築学科）（R7.3.18承認） 1-⑯ 令和8年9月～特設サイト/パンフレット制作（建築学科） 1-⑰ 令和8年9月～動画制作（建築学科） 1-⑱ 令和8年9月～動画広告作成、配信（情報学部、建築学科）	R6年度自己評価	【2】計画を十分には実施していない。 当初の予定より、工学系学部や通信制学部の開設に必要な条件の調査に時間を要したため、カリキュラム検討会議や教育課程の内容検討を開始する時期が遅れた。 また、新設予定の通信制情報学部は、既存の学部にはない新たな学位の分野（工学関係）であり、かつ、通信制であることから、当初の予定より、構想やカリキュラムの検討および教員候補者の選定に時間を要した。そこで、まずは、事業の核となる部分の検討に時間を割き、海外教育機関との会合、企業や関係団体によるワークショップおよび自治体・企業への意見聴取については、次年度に実施することとした。 一方で、デザイン学部建築学科については、おおよそ計画の通り進めることができたが、こちらも構想やカリキュラムの検討に重きを置いたため、ニーズ調査を次年度に実施するよう計画を変更した。 次年度は、構想やカリキュラムの検討および通信制の労務諸条件整備等を前期間に行ない、その他の取組へ繋げるため、検討体制を見直すとともに、計画変更を行ない、着実に計画を進めることができるよう務める。
	2-① 令和7年1月～新校舎基本設計 2-② 令和7年8月～実施設計 2-③ 令和8年7月～新築設計管理 2-④ 令和9年4月～「新校舎」の改築（情報学部、建築学科）	2-① 令和7年1月～新校舎基本設計 2-② 令和7年8月～実施設計 2-③ 令和8年7月～新築設計管理 2-④ 令和9年4月～「新校舎」の改築（情報学部、建築学科）	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。 新校舎の基本設計については、おおむね計画の通り進めている。ただし、施設設備整備費・建物取得費における令和6年度の「基本設計費」については、令和7年度に見送った。これによる学部開設への影響はない。
認可申請又は届出	令和9年3月 情報学部(学科名称検討中)設置認可申請予定 令和9年6月 デザイン学部建築学科収容定員に係る学則変更届出予定			
フェーズ2	1-⑰ 令和9年4月～Web、新聞など各メディアでの広報展開（情報学部、建築学科） 1-⑱ 令和9年7月～入学試験要項の公開（情報学部、建築学科） 1-⑲ 令和9年9月～入学願書受付開始（情報学部） 1-⑳ 令和9年9月～入学者選抜（他の通学課程入試と同タイミング、複数形式、複数回）（建築学科） 1-㉑ 令和10年3月～初年次入学者確定、入学前ガイダンス（情報学部、建築学科）		○年度自己評価	リストから選択してください。
	2-⑤ 令和9年 新校舎の施設設備整備（情報学部、建築学科）		○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	令和10年4月 情報学部(学科名称検討中)開設予定（入学定員100人、編入学定員50人、工学関係） デザイン学部建築学科定員増予定（入学定員76名、美術関係、工学関係）			
フェーズ3	2-⑥ 令和10年4月～ 新校舎施設設備整備（情報学部、建築学科）		○年度自己評価	リストから選択してください。
	3-① 令和10年4月 情報学部開設、運営（以降継続）（情報学部） 3-② 令和10年4月 授業配信でのオリジナルMSシステムの実用、並走して検証、改善（以降継続）（情報学部） 3-③ 令和10年4月 新入生アンケート（以降定期実施）（情報学部、建築学科） 3-④ 令和10年5月 学部、学科運営会議（以降定期開催）（情報学部、建築学科） 3-⑤ 令和10年5月 連携機関を含めた運営委員会（以降定期開催）（情報学部） 3-⑥ 令和10年8月 在学生アンケート（以降定期実施）（情報学部、建築学科） 3-⑦ 令和10年8月 インド工科大学、シリ・パラジ大学等の夏期合同授業（以降定期実施）（情報学部） 3-⑧ 令和10年中 パンフレット改訂、増刷（建築学科） 3-⑨ 令和10年～ 動画広告配信（以降複数回実施）（情報学部、建築学科） 3-⑩ 令和14年3月 卒業生アンケート、進路調査（以降定期実施）（情報学部、建築学科）		○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和9年6月 人文学部（国際文化学部から名称変更を2024年度内に文部科学省へ事前相談予定）の収容定員減に係る届出予定（入学定員 人文学科160人、グローバルスタディーズ学科90人、社会学・社会福祉学関係）			

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	京都精華大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。					
	<table><tr><td>計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック					
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。					
	<table><tr><td>認定を受けておらず申請する意向もない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック			
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	京都精華大学
-------------	-------	-----	--------

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☒ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報学部 a.ベースドラム社がDX推進人材を派遣している制作会社でのインターンシッププログラムを実施したり、共同プロジェクトを実施する計画である。他にも、株式会社ロフトワーク（社会問題課題を創造性を持ったプロジェクトで解決。FabCafe Kyotoを運営）、株式会社博展（展示会等の企画を実施、体験価値の創造を通じて、企業・団体のコミュニケーションをデザイン）、株式会社たきコーポレーション（UI／UXに強い）等から実務者を講師として招く。フェーズ1でもワークショップを実施し、授業の編成に活かす予定である。 c.連携実績のあるインド工科大学ムンバイ校や、シリ・パラジ大学と連携し、同校の授業のカリキュラムへの導入、留学制度の開設、合同ワークショップなどを計画している。 建築学科 c.既にアメリカのオープン大学とのワークショップ(ワークショップ後に転用・リサイクルできる素材、自然に還るサイクルの早い素材を使ってプリミティブな小屋を作る課題)や、ドイツのアンハルト大学とのワークショップ(建築資材の転用に着目し、街にサステナブルな居場所をつくる課題)を実施している実績がある。今後も、海外の提携大学との合同ワークショップの取組を発展させていく計画である。	情報学部(学科名称検討中) a.申請時に立てた計画を実施するため、その基盤となる学部構想やカリキュラム内容の検討を進めた。一方で、令和6年度に計画していたワークショップについては、令和7年度に実施するよう計画を変更した。 c.海外大学との連携を行なう前段階として、基盤となるカリキュラムの検討を進めた。令和6年度に計画していた連携に向けた会合については、令和7年度に実施するよう計画を変更した。 デザイン学部建築学科 c.海外大学との連携を行なう前段階として、基盤となるカリキュラムの検討を進めた。	情報学部(学科名称検討中) a.c.新設予定の通信制情報学部は、既存の学部にはない新たな学位の分野（工学関係）であり、かつ、通信制であることから、当初の計画より、工学系学部や通信制学部の開設に必要な条件の調査、構想やカリキュラムの検討および教員候補者の選定に時間を要したことにより、一部の計画に遅れが生じた。令和7年度は、円滑に検討を進めるための体制構築や事業目標へ到達するために必要となる取組の再考を行なう。それらを踏まえ、現状に即した計画の変更手続きを行ない、着実に計画を進める。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☐ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☒ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報学部 c.地域の通信制高校拠点と連携したオンライン授業の実施。 d.授業および教材のオンデマンド配信によって、時間や空間の制約が無い柔軟な受講、繰り返し学習、隙間学習などを可能とし、リカレント・リスキング受講層も広く受け入れる。 e.コンテンツの完全英語化、国外からの受講を促進するための、オンデマンド授業の充実、海外連携校等との関係強化 建築学科 b.女子高生に向けた建築分野のワークショップを積極的に行う計画である。 c.京都精華大学では、子ども木工工作工房の出張ワークショップを行ったり、近隣高校への高大連携を通じた出張授業の実施を行っている。今後もこの取り組みを発展させるべく新たな出張ワークショップや高大連携授業先を開拓する計画である。 e.本学の入試制度では国内受験生だけではなく、外国人留学生への扉も広く開かれていることを外国人留学生を多く抱えている日本語学校等へ発信していく。また、大学では1年次からの英語を用いた授業の実施を行っており、外国人留学生の受け入れ体制としても整っていることをアピールしていく計画である。	情報学部(学科名称検討中) c.e.地域の通信制高校拠点との連携授業を実施するため、前提となるカリキュラムの検討を進めた。 d.e.本学の通信教育課程における教育方法の軸となるLMS（ラーニングマネジメントシステム）の構築に向け、システム関係業者へのヒアリングを行なった。 デザイン学部建築学科 b.c.e.各取組の実施に向け、構想やカリキュラムの検討を進めた。	

大学名	京都精華大学
-----	--------

1.本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	京都精華大学
-----	--------

本事業対象となる学部等の個数	2
----------------	---

1.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)

改組内容	学部の新設
学部学科名	情報学部(学科名称検討中)

[illegible]

大学名	京都精華大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1098	1098																	
		入学者数	人	984	953																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,098	1,098																	
		入学者数(B)	人	984	953																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	0.90	0.87																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	4392	4392																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	4031	4008																	
		編入学者数	人	28	24																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	0.92	0.91																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況			選定－6年	選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		106,203	96,476	107,759	121,287	71,366	91,346													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得 額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の 平均）(E)	千円	103,479
本事業による助成金の額(F)	千円	1,257,447
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	134,915

特記事項

・「1.本事業対象となる学部等の状況」デザイン学部建築学科の令和6年度および令和7年度の編入学定員0名とは、若干名を意味している。 ・「2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況」授業科目の単位数については、入学年度によってカリキュラムが異なるため、以下の通り算出した。 〈R6年度〉2017～2020年度入学生向けカリキュラムおよび2021～2024年度入学生向けカリキュラムにおける対象授業科目の単位数を合算。 〈R7年度〉2021～2024年度入学生向けカリキュラムおよび2025年度以降カリキュラムにおける対象授業科目の単位数を合算。 ・「3.大学（学士課程）の状況」の令和6年度および令和7年度の「編入学定員」0名とは、若干名を意味している。
--